

9月1日より ポリオの予防接種が変わります

ポリオの予防には、ポリオワクチンの接種が必要です。

ポリオは…

人から人へ感染します。ポリオウイルスが人の口の中に入ると腸の中で増えることで感染します。



増えたポリオウイルスは、再び便の中で排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもありますが、乳幼児がかかることが多い病気です。そのため、乳幼児期の予防接種が推奨されているのです。

ポリオウイルスに感染すると…

手や足に麻痺があらわれその麻痺が一生残ってしまうことがあります。

麻痺の進行を止めたり、麻痺を回復させるための治療が試みられてきましたが、現在残念ながら特効薬などの確実な治療法はありません。

日本では、1960年に、ポリオ患者の数が5千人を超え、かつてない大流行となりました。生ポリオワクチンの導入により、流行は、おさまりました。



そのため、2000年にポリオの根絶を報告しましたが、世界には今でも流行している地域があり、渡航者などを介して感染はどの国にも広がる可能性があります。

パキスタン、アフガニスタンなどの南西アジア、ナイジェリアなどのアフリカ諸国では今でも流行がみられます。

いったんポリオが根絶された中国やタジキスタンなどでも最近流行が起こったと報告されています。

「生ワクチン」と「不活化ワクチン」の違いは…



「生ワクチン」はポリオウイルスの病原性を弱めてつくったものです。

ポリオにかかったとき、ほぼ同様の仕組みで強い免疫が得られます。

免疫をつける力が優れている一方で、まれにポリオにかかった時と同じ症状が出る可能性があります。

その他、麻疹(はしか)、風疹(3日ばしか)のワクチン、結核のBCGが生ワクチンです。

「不活化ワクチン」は、ポリオウイルスを不活化し(殺し)免疫をつくるのに必要な成分を取りだして病原性を無くしてつくったものです。

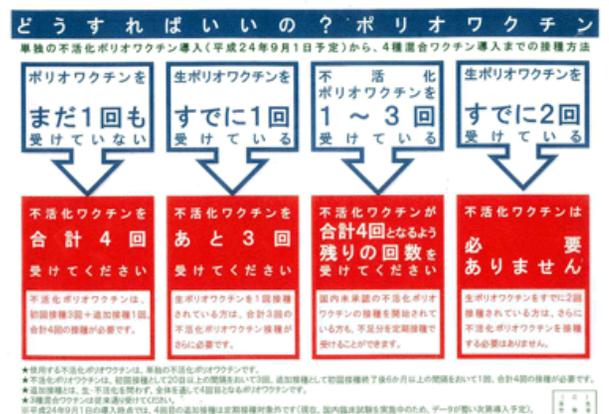
ウイルスとしての働きはないので、ポリオと同様の症状が出るという副反応はありません(ただし、発熱など、不活化ワクチンにも副反応はあります。)

その他、百日咳、日本脳炎のワクチンが不活化ワクチンです。

今まで生ワクチンで行ってきたポリオワクチンにも、副反応のポリオにかかってしまう事例により、平成24年9月1日より各医療機関での不活化ポリオの導入が、できることとなりました。

不活化ポリオワクチンの定期接種は4回(初回3回、追加1回)の接種が必要です。生ポリオワクチンは2回接種でしたが、不活化ポリオワクチンは、初回接種として20日以上の間隔をおいて3回、また追加接種として初回接種終了後6ヶ月以上の間隔をおいて1回、合計4回の接種が必要です。

南足柄市保健医療福祉センターでも、不活化ポリオワクチンの導入にあわせ、8月17日のポリオ生ワクチンで集団接種を終了します。



9月からの不活化ポリオワクチンの導入を待つてポリオ生ワクチンを接種せずに様子を見る人が増えると免疫をもたない人が増え国内でポリオの流行が起こってしまう危険性があります。

できるのであれば1回接種している方は、7月20日、8月17日に南足柄保健医療福祉センターでポリオ生ワクチンを接種しておくことをお勧めします。

また、4種混合ワクチンの導入も、平成24年11月を目指しているそうです。

これは、今まで行っていた3種混合ワクチン(ジフテリア・百日咳・破傷風)に加えて、不活化ポリオワクチンを入れたものです。

これもまた、11月の導入を待っていると危険です。

乳児が百日咳にかかると重症化し、命に関わることもあります。そのため、3種混合ワクチンは、生後3ヶ月を過ぎたらできるだけ早く接種することが望ましいです。

最後に予防接種を受けるときは、接種内容の確認にもなるので、必ず母子手帳を持参して下さい。

みなさんの質問や投稿をお待ちしております。

受付けからのお願い

月初めには必ず保険証を受付けにお出し下さい。

診察券は毎回お持ち下さい。

編集に当たり校正には十分

注意致しましたが、誤字・脱

字等がありましたらご容赦下

さい。

7月・8月の休診日

休診 日曜・祭日
午後休診 水曜・土曜

8月14日(火)

~8月16日(木) 盆休み

E・メールを送って下さい。

norikazu@okutu.jp

